

第4回 脳研・高度先進合同セミナー

マスターキータンパク質を介する創製分子による脳保護の研究-システインを介する細胞内情報伝達-

佐藤拓己先生

(岩手大学工学部福祉システム工学科)

日時：12月26日（火） 18:00～19:30

場所：

講演要旨

日本では、認知症などの慢性の神経変性疾患が深刻な社会問題になりつつある。薬剤による認知症の克服を目指して、申請者は新規化合物（NEPP11）を創製した。NEPP11は、ニューロンを保護する作用を持ち、日本に研究の蓄積があったプロスタグランジンの構造を基本にしている。NEPP11はニューロンへ直接作用するため副作用が少ない。このためNEPP11は、他の化合物よりも有利である。さらに薬剤を開発するためには、効果のある化合物を連続して生み出す「一定のコンセプトに沿った研究」が必要である。申請者は、NEPP11を用いて、「マスターキータンパク質 Nrf2を活性化する化合物」というコンセプトを提示した。植物由来の化合物の一群が、マスターキータンパク質を活性化することは既に知られているから、申請者がこのコンセプトを確立したことによって、植物由来の化合物を、認知症の予防・治療に応用する道が拓かれた。

Information : 伊東 健 5158
若林孝一 5130